

No. 1379

さわやか信州

— 志賀高原 —

鮮やかな新緑に包まれた志賀高原。湖のほとりをさすらう日、それは青春の旅。野鳥を求めながら自然に親しむ頃、それは子供たちの思い出。野山に分け入り、山の幸に舌づつみ。それは大人たちの郷愁。素朴な自然に溶け込む一時、それは人々の希望とロマン。

正しい理解を

— 日独青少年絵画展 —

絵画展「日・独青少年が描く日本とドイツ」がいま、東京赤坂のドイツ文化会館で開かれています。これは東京ドイツ文化センターが日本とドイツの相互理解を深めようと企画したもので、会場には両国の青少年がそれぞれの相手国をイメージして描いた作品約300点が展示されています。作品は水彩、貼り絵など多種多彩にわたり、そのひとつひとつが両国の理解度を示しています。展示会を記念して行われたパネルディスカッションには日本、ドイツの教育関係者、中学、高校生など280人が出席、南ドイツ新聞のケプハルト・ヒールシャーさんの司会で相手国のイメージは正しいのかなどをテーマに活発な意見が交わされました。

大平首相、急死

「昨夜まできわめて元気だった大平首相は、6月12日、午前2時容体が急変し、午前5時54分逝去された。」去る5月30日から、東京・虎の門病院に入院中だった大平首相は6月12日、急性心不全で急逝した。70歳。首相の棺を乗せた車は国会の側を通り抜け、昼まえ、悲しみにくれる瀬田の私邸に戻った。半旗を掲げる首相官邸には、諸外国の駐在大使も続々と弔問にかけつけた。首相臨時代理に指名された伊藤官房長官は同日、午後5時、臨時閣議を召集、憲法70条の規定により、第二次大平内閣の総辞職を行い、選挙後、新首相が指名されるまで職務執行内閣を継続する。

昭和35年7月、池田新内閣で閣僚名簿を発表する大平官房長官。昭和53年、12月第一次伊藤内閣から68代目の首相となった。去年はサミットの議長として首脳外交を無事こなし、体が丈夫なだけが“とりえ”だと言っていた。5月に大平内閣不信任案が可決されると衆院を解散、初の衆参同時選挙へ打って出た。

その矢先の死。クリスチャンであった大平首相、賛美歌の流れる中、政財界の大物が次々と弔問。現職首相の死去が初のダブル選挙に、どんな結果をもたらすのか、国内外ともに予測の難かしい80年代だけに、激動の政治動向に更にはずみをつけることになりそうだ。